

名古屋のまちに 爆弾が降ってきたー

名古屋大空襲



2023年、今年は戦後78年を迎えます。アジア・太平洋戦争末期、日本各地は米軍の空襲をうけ、市民の頭上に「前線」と同じように爆弾が降り注ぎ、おびたしい市民のいのちが奪われ傷つけられました。私たちが暮らす名古屋の地も63回もの空襲を受け、終戦の1945年8月15日には焼け野原になっていました。延べ2580機のB-29から投下された爆弾・焼夷弾は1万4500トン。東京に次ぐ多さです。今回の展示は、市街地への空襲、航空機産業の拠点だった名古屋、空襲時「逃げずに火を消せ!」とした防空法などについて展示しています。

展示内容《パネル解説》

【名古屋のまちに爆弾が降ってきたー名古屋大空襲】●3月の空襲ー空襲被害者の1/3以上が集中●3月12日の空襲●3月19日の空襲●3月24日の空襲●5月14日の空襲ー炎を上げて名古屋城が燃えた●6月9日の空襲ー8分間で奪われた2000人のいのち●その時地上では●体験者の証言・絵
【名古屋の空襲被害が大きかったのはー】●名古屋で軍用機の生産がはじまったー●日本を代表する軍用機メーカーへ●防空法・国民に課せられたー逃げずに火を消せー●軍による防空●市の周辺町村への被弾●名古屋市内に残る空襲遺跡

写真：(上)名古屋松坂屋、(下)焼け焦げた松坂屋
2点共モージャー(Robert V. Mosier)氏撮影、
1946年4月から1947年1月頃、国立国会図書館蔵

[博物館相当施設]

戦争と平和の資料館

ピースあいち

〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台2-820
TEL&FAX 052-602-4222
<https://www.peace-aichi.com/>

